

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数							非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手		
医療福祉学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	6 人	3 人	1 人	3 人	13 人	6 人	9 人	1 人	14 人	7.5 人
計	6 人	3 人	1 人	3 人	13 人	6 人	9 人	1 人	14 人	—

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
○	9 割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8 割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・専門基礎・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	輝ける者	42	小野部純、黒沢麻美、二科妃里、渡邊洋一、志賀野桂一	兼任
		生命を考える	14	中村哲也、加賀谷豊、阿部玄治、本多ふく代、大庭みよ、佐藤大輔	専任・兼任
		人間文化探求	14	加藤由美、加賀谷豊、長井真弓、石川奈津美、石垣亨、石橋千賀	兼任
		生活の中の科学	14	相澤康弘、沈紅、鈴木陽一、高根昭一、長田俊明、八十川淳、野崎淳夫、須藤諭、山本和恵、川村広則、一條佑介、二科妃里、梅岡恒治、富山正幸	兼任
		地域活動・ボランティア	28	豊田正利、平山和哉、香山明美、作山美智子、野崎瑞樹、徳田律子、山崎真帆、渡邊洋一	専任・兼任
		現代社会を視る	14	馬内里美、田邊文彦、ヴォルグレイブイーライ	兼任
		ボランティア探求	42	渡邊洋一	兼任
		情報処理	14	北川公路	専任
		医療情報科学	7	鈴木亮二	兼任
		医療数理基礎	7	西澤哲	専任
		基礎数学	14	伊藤朋幸	兼任
		基礎物理学	14	西澤哲	専任
		基礎化学	14	堂浦克美	兼任
		基礎生物学	14	戸田孝史	兼任
		統計解析	14	西澤哲	専任
		アカデミック・スキル演習	28	本多ふく代、北川公路、犬塚千賀子、矢萩未来	専任
		スポーツ実技	14	犬塚剛、森田清美、稲井勇仁、中島千恵子、金田幸夫	兼任

分野 (基礎・専門基礎・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	心理学	14	北川公路	専任
		生命倫理	7	浅川芳直	兼任
		英語Ⅰ	28	大野朝子、大槻くるみ、グッチェフランク、酒井孝之	兼任
		英語Ⅱ	28	増井三千代、ギャリーマームグレン	兼任
		韓国語	14	李恵慶	兼任
		中国語	14	王效紅	兼任
		コミュニケーション論	14	邑本俊亮	兼任
		現代国語表現	14	大泉浩一	兼任
		海外研修	28	増井三千代、立花顕一郎、文慶喆、王元	兼任
		憲法と法律	14	淡路智典	兼任
		文化人類学	14	瀬川昌久	兼任
		日本・東北文化論	14	栗原伸一郎	兼任
		日本近代史	14	渡邊洋一	兼任
		健康科学	14	稲井勇仁、古林俊晃	兼任
		教育学Ⅰ	14	三塚明彦	兼任
		教育学Ⅱ	14	泉山靖人	兼任
		地球の科学	7	千葉一	兼任
		哲学	7	菅原宏道	兼任
		生活と経済	7	貝山道博	兼任
		ジェンダー論	7	妙木忍	兼任
		政治学	7	王元	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	28	内藤輝	兼任
		解剖学実習	28	内藤輝、首藤和弘、高橋由美	専任・兼任
		解剖学Ⅱ	28	内藤輝	兼任
		基礎運動学	14	西澤哲	専任
		運動学演習	14	高橋由美	専任
		運動学実習	14	西澤哲、高木大輔、高橋由美、太田千尋	専任
		生理学Ⅰ	14	古林俊晃	兼任
		生理学Ⅱ	14	古林俊晃	兼任
		生理学実習	14	古林俊晃、本多ふく代、太田千尋	専任・兼任
		人間生涯発達学	7	本多ふく代、星孝	専任・兼任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論	14	渡辺隆夫、沼崎宗夫	兼任
		内部障害系病学	14	佐藤秀隆	兼任
		神経障害系病学Ⅰ	14	津田丈秀	専任

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
専門基礎	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	神経障害系病 学Ⅱ	7	津田丈秀	専任
		運動器障害系 病学	14	永元英明	兼任
		精神障害系病 学Ⅰ	14	二木文明	兼任
		精神障害系病 学Ⅱ	14	二木文明	兼任
		発達障害系病 学	7	大浦敏博	兼任
		老年期病学	7	佐藤秀隆	兼任
		臨床心理学	14	北川公路	専任
		栄養学概論	7	小野部純、鈴木誠、平山和 哉、釧明佳代子	兼任
		救命救急学演 習	14	渡辺隆夫	兼任
		リハビリテー ション医学	7	津田丈秀	専任
		病態薬理学	7	渡邊隆夫、津田丈秀、浅野浩 一、佐藤秀隆、松谷幸子	専任・兼任
	保健医療福祉とリハビ リテーションの理念	リハビリテー ション概論	7	香川明美	専任
		リハビリテー ション心理	7	北川公路	専任
		医療経済論	7	吉田裕人	兼任
		公衆衛生学	7	吉田裕人	兼任
		チーム医療福 祉論	7	大黒一司	専任
		保健医療福祉 概論	14	森田慎二郎	兼任
		専門職連携論	7	大黒一司、大庭みよ、渡邊隆 夫、伊藤清世、樽林雅司、佐 藤尚子、土井勝幸	専任・兼任
		専門職連携セ ミナー	14	大黒一司	専任
専門	基礎作業療法学	作業療法概論	14	高木大輔、香山明美	専任
		基礎作業学	7	王治文、本多ふく代、矢萩未 来	専任
		基礎作業学実 習	28	王治文、首藤和弘、矢萩未 来、太田千尋、阿部秀樹	専任・兼任
		作業分析学	28	本多ふく代	専任
	作業療法管理学	作業療法管理 学	14	大黒一司、小野智美、小野咲 子、渡部達也	専任・兼任
	作業療法評価学	作業療法評価 学	7	高木大輔、首藤和弘	専任
		作業療法評価 学演習	14	高木大輔、首藤和弘、太田千 尋	専任
		作業療法評価 学実習Ⅰ	28	太田千尋、首藤和弘、高木大 輔、王治文	専任

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
専門	作業療法評価学	作業療法評価学実習Ⅱ	28	香山明美、高橋由美、矢萩未来	専任
		作業療法評価学実習Ⅲ	28	本多ふく代	専任
	作業療法治療学	作業治療論	7	本多ふく代	専任
		身体障害作業療法学	7	首藤和弘	専任
		内部障害作業療法学	7	高木大輔	専任
		神経障害作業療法学	14	高橋由美、首藤和弘	専任
		運動器障害作業療法学	7	高木大輔	専任
		身体障害作業療法学演習	14	首藤和弘、高橋由美、犬塚千賀子	専任
		身体障害作業療法学実習	28	王治文、大黒一司、首藤和弘、道又顕、荒井隆徳	専任・兼任
		発達障害作業療法学	14	本多ふく代	専任
		発達障害作業療法学実習	28	本多ふく代	専任
		精神障害作業療法学	14	香山明美、矢萩未来	専任
		精神障害作業療法学実習	28	香山明美、矢萩未来	専任
		高次脳機能障害作業療法学	14	高橋由美	専任
		老年期障害作業療法学	7	犬塚千賀子	専任
		日常生活活動学	14	高木大輔、太田千尋	専任
		生活環境技術学	14	犬塚千賀子、大黒一司、黒後裕彦	専任・兼任
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	7	首藤和弘	専任
		地域作業療法学Ⅱ	14	首藤和弘、庄司幸恵、遠藤宏恵、澤田竜弥、廣島志保、松木紀子	専任
		地域作業療法学演習	14	香山明美、大内佳子	専任・兼任
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	42	香山明美、作業療法学専攻教員	専任
		臨床実習セミナーⅠ	28	矢萩未来、本多ふく代、高木大輔、犬塚千賀子	専任
		臨床実習Ⅱ	210	香山明美、作業療法学専攻教員	専任
		臨床実習セミナーⅡ	28	首藤和弘、香山明美、王治文	専任
		臨床実習Ⅲ	210	香山明美、作業療法学専攻教員	専任
		臨床実習セミナーⅢ	21	高橋由美、太田千尋	専任

分野 (基礎・専門基礎・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
専門	臨床実習	地域作業療法学実習	21	香山明美、作業療法学専攻教員	専任
	特別科目	臨床体験	28	矢萩未来、香山明美、本多ふく代、犬塚千賀子	専任
		作業療法研究法	7	王治文、大黒一司、西澤哲	専任
		作業療法実践特論	56	大黒一司、香山明美、王治文、首藤和弘、高橋由美、犬塚千賀子、矢萩未来	専任
		作業療法研究特論	56	本多ふく代、西澤哲、高木大輔、北川公路、太田千尋	専任
		基礎科目演習セミナーⅠ	14	太田千尋、西澤哲、王治文、首藤和弘、高橋由美	専任
		基礎科目演習セミナーⅡ	14	太田千尋、西澤哲、王治文、首藤和弘、高橋由美	専任
		作業療法学特別演習	14	高橋由美、作業療法学専攻教員	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床体験（見学実習）	1 年次通年	アカデミック・スキル演習	1 年次通年
		リハビリテーション概論	1 年次前期
		チーム医療福祉論	1 年次後期
		作業療法概論	1 年次前期
		臨床体験（講義）	1 年次通年
		作業療法評価学	1 年次後期
臨床実習Ⅰ（評価計画立案実習）	2 年次後期	保健医療福祉概論	2 年次後期
		臨床実習セミナーⅠ	2 年次通年
		作業療法評価学	1 年次後期
		作業療法評価学演習	1 年次後期
		作業療法評価学実習Ⅰ	2 年次前期
		作業療法評価学実習Ⅱ	2 年次後期
		作業療法評価学実習Ⅲ	2 年次後期
臨床実習Ⅱ（総合実習）	3 年次後期	専門職連携論	3 年次前期
		臨床実習セミナーⅡ	3 年次通年
		作業治療論	2 年次前期
		作業分析学	3 年次前期
		身体障害作業療法学	2 年次前期
臨床実習Ⅱ（総合実習）	3 年次後期	神経障害作業療法学	2 年次後期
		運動器障害作業療法学	2 年次後期
		内部障害作業療法学	3 年次前期
		精神障害作業療法学	2 年次後期
		発達障害作業療法学	2 年次後期
		老年期障害作業療法学	3 年次前期
		高次脳機能障害作業療法学	3 年次前期

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習Ⅱ（総合実習）	3 年次後期	日常生活活動学	2 年次前期
		生活環境技術学	3 年次前期
臨床実習Ⅲ（総合実習）	4 年次前期	臨床実習セミナーⅢ	3 年次前期
		作業治療論	2 年次前期
		作業分析学	3 年次前期
		身体障害作業療法学	2 年次前期
		身体障害作業療法学演習	2 年次後期
		身体障害作業療法学実習	3 年次前期
		神経障害作業療法学	2 年次後期
		運動器障害作業療法学	2 年次後期
		内部障害作業療法学	3 年次前期
		精神障害作業療法学	2 年次後期
		精神障害作業療法学実習	3 年次前期
		発達障害作業療法学	2 年次後期
		発達障害作業療法学実習	3 年次前期
		老年期障害作業療法学	3 年次前期
		高次脳機能障害作業療法学	3 年次前期
		日常生活活動学	2 年次前期
		生活環境技術学	3 年次前期
地域作業療法学実習	4 年次前期	地域作業療法学Ⅰ	2 年次後期
		地域作業療法学Ⅱ	3 年次前期
		地域作業療法学演習	3 年次前期
		作業療法管理学	3 年次前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検及び自己評価運営委員会
委員名（委員長）	加賀谷 豊
組織の開催頻度	1年に3回程度
組織の取り組み内容	大学各学部及び大学院研究科の点検及び評価の結果の統括調整
	大学及び大学院の点検及び評価の実施結果のとりまとめ
	学校教育法第109条に規定する認証評価機関が行う検証及び評価
	学校法人東北文化学園大学自己点検・自己評価委員会への報告
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： https://www.tbgu.ac.jp/about/information/selfcheck ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会、教学マネジメント委員会、研修委員会
	委員構成等	教務委員会：教務部長、教務副部長、各学科専攻教員代表者 教学マネジメント委員会：学長、大学院研究科長、各学部長、学生部長、 教務部長、事務局長、教務課長、教授 1 名、准教授 1 名 研修委員会：教務部長、基礎教育センター長、事務局長、庶務課長、教 務課長、I R 室長、教授 4 名、准教授 1 名
	改善の仕組みの実際	シラバスに記載する事項については教務委員会で検討し毎年改善を図っ ており、それを元に教務課がシラバスの意義と作成方法、留意点等を科 目担当者に示している。科目毎のシラバスは科目関係教員がチェックし たり、学科長・専攻長がチェックしたりしている。また、シラバスに示 されている学習目標の達成度を判断するための方法等を教務委員会で検 討したり、そのための研修会を研修委員会が開催したり、授業評価にお ける学生意見をシラバスに反映するように教務課が促したりするなど、 シラバス改善に努めている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

本学では、2017 年度に第三者評価として（公財）日本高等教育評価機構による大学認証評価を受審し、2018 年 3 月に同機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。その結果を踏まえ各学科・専攻において必要に応じた対応が検討されるとともに、大学としては中期目標・中期計画「輝ける者を育むⅡ」をそして 2022 年度には「輝ける者を育むⅢ」を策定し、毎年度実施している自己点検・自己評価の結果も踏まえてさらなる改善に取り組んでいる。また、作業療法学専攻は（一社）リハビリテーション教育評価機構の認証評価を 2017 年度と 2022 年度に受審し、作業療法士教育に必要な施設基準およびカリキュラムを提供する優れた養成施設であると認定を受けた。その際の指摘事項等について作業療法学専攻教員全員で共有し、専攻内 FD 活動を通してさらなる改善に取り組んでいる。更に 2022 年度に世界作業療法士連盟の教育水準を満たす認定も受けている。